

伯棉の品質向上に 優良品種の統一を圖れ

英國精棉會社書記長語

國內構成會社聯盟書記長ルーヴ
ベアーレス氏は伯補研究の爲様で
聖州東方面の旅行を終つて去
る十二日カンピーナス監事試験所
の見學を終つて、北米に向け出發
來伯申で伯國詣州を視察し、つい
て聖州東方面の旅行を終つて去
る十二日カンピーナス監事試験所
の見學を終つて、北米に向け出發
する筈だがカンピーナス等新聞記
者に左の如き懇意談をした
今度バウル、ピラニンガ、カ
ンピーナス、アララの各地方を視
察し終つて聖州の耕作の發展して
いるものには全く驚いてしまつた
が、各地とも上成績だが中に早
い被害の見られる所もあつた聖
州は最近三個年に於て非常なる生
産増加を来たし品質の改良と相
つて海外商人を喜ばせ改良と相
し伯補がその相も同じ長さの織維
を持った桶である程度進歩して來れ
ばよしや生産が買つて失るこ
製業者達は全部買つて居る土壤
のや、加里性的の不足して居る土壤
から生産された桶は織維が弱いか
ら注意しなければならない
聖州は北米から來たもので未だ
其の特質を持つて居るが常に品質
改良に注意して専門家達は今
回其の地方に最も適した一種歴史
植る様にしてい意見を持つて居
る。試驗場で聞いたが是は品質改
良上實に有効な事では非實行して
欲しいと思ふ、何さなれば織維の
品質が一定すれば工程機械に對
してもより多く利益があり從つて
需用も増すわけである
桶に對して最も必要な事は各桶が
同じ長さの織維を持つ事である以
上一地域に一種類の桶だけしか植
えないと言ふ事は最も有効な方法
である、次で農事試驗場について
の感想を聞かれる、織密に視察
したが各専門家諸氏の努力に依り
漸次完成され伯國に對して大い
なる利益をもたらす事を思ふ、試
験されて居た各種の桶もいづれも
上成績だが中でもピラニンガの
如きは特に目立つて居た、白いそ
して長い織維を持つた此の種は今
後海外商人の大きい歡迎する所と
なると思ふ、これもかうした試験
場の努力の結果であると語り更に

のに近く調印替も漸次好轉せり
一九三三　六、〇一
次に一九三三年生絲の世界は五四、一〇一噸で第一位で四二、一六〇、二位が五四、一〇一、三位がギリシャは四〇三噸である。伊太利は蘭生産國であり乍ら牛絲の僅かに二一五噸で伯國はすつと下の六十噸であるが八年の二〇一噸余に比べれば發達ぶりで殊に最後の二〇一八年では倍加的に増加してゐる。

品	相物段筋名
珈	十四級
琲	四級
ス	三級
ム	二級
ル	一級

山製菓所
コンデー・テ
ルセーダス八
御休つくり召
料事へます
わねひ改ります
美乃家
パンガード一
日六ミル
二番
ゲーラ街
電話二七六一
四四名入用です
一切無料
バナナミル
日六ミル
一
所譲る
の老舗、フレグ
合に依り格安譲
細工左記
ヨアキン街四三七
電話
七三七五五
のもので例へ意匠は現代風で
のは決して現はれて居りませ
のや紙物のミシンを賣付けられ
た他會社製ミシンが一般に
のを残した有様なつて居
最初に正當の御注意を拂はれ
織物はシンガーで出来ます。
世界に亘り一ヶ年に三百萬枚
仕上げの精巧並に其能率及び
すには必ず最優等品を使用す
も知れませんが良い品は結局
つた上着及下着の裁縫に適す
用品の實演に應じます、又は
ます。
下さい。

セは遊丁の「弱脚、能を争」未病は保・足運行もアレ。

品名	15日	16日	17日	
堆四級 精上品 下級品	十基 六十基 三十基	17.250 59.000 30.50	17.200 59.000 30.500	休日
米 並等品	アグリナ(特上) 並等品	55.000 40.000	55.000 40.000	
イモカ粉 粉(内國產)	四五基	21.50 44.00	21.500 42.000	
ジヨン・クロ ヨ・アマレニヨ	60基	17.700 17.00	18.00 16.80	
マレロン 三級品(C)	一打	1.60 1.60	3.70 3.70	
イギドン ラ(聖產)	五粒品	58.40	57.50	
ノフアルブ	十五基一等	ノミナル .210	ノミナル .210	
脂	一基 六十基	199.000 15.000	199.000 15.000	
油(味正味三六基入箱)				
蜜	アマレラ 上等	19.00	19.00	
ナ 輸出向	一打房	15.00	15.00	
油(スタンダード二雄)				
卵	基二十	34.000 3.50	34.000 3.500	

▼場所と收入の多い事
▼得意擴張の餘地充分ある
豆腐屋

番
二
三
名
女
始
さ
ん
一
新
ら
し
い
料
亭
羽
一
室

富 務
士 白
七 九 番
七 二 三
自 午 飛 七 時
聖 市 コ ノ
岡 山

一至午後九時
山齒科
ニナール 一三五
ンデード。

三二一特三二一並
號號號製號號製
大
百七五型四三二
二十十十五十五
十五五五五五
糸糸糸糸糸糸糸

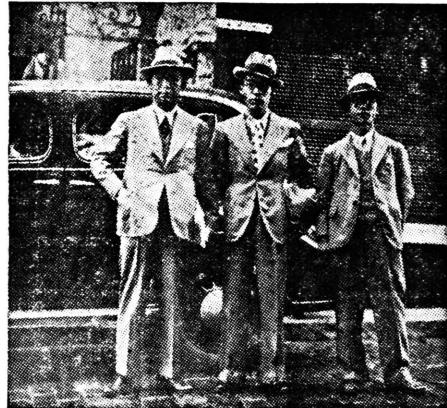
バ 拓植の新土選定に 膳立役昨朝聖市出發

土地購入後直ちに宿舎等を準備

不安ある中は歸らぬ……

堅き決心の矢崎主事

【真寫】
江細 崎矢りよ左



本年米收穫 五割以上の減少

惨めなノロ線米作者

一月中旬の降雨は米作農家の生命

握つてゐるのであるが、今年は

多少でも後に不安が残るやうだ

つた自分はその不安の掃除までは歸つて來ない決心で

ある云々

地中海沿岸に 大暴風襲來

被 命 頗 る 甚 大

去る十一日歐州方面を襲つた暴風
については今日に至るも未だ判明

しないがコンスタントノーロアル

十五日電報によると同方面

の港で二百五十隻の帆、モータ

船頃覆没航行不明となりアンカラに

於ては三百三十五戸の家屋が無修に

倒壊しイズミルで七十戸、其他

の諸港で二十五隻の小船が海岸に

打ち上げられ破壊したスタンブル

ケでは約三千の小船が水の爲に凍

結され約二百萬磅の損害ださ

れ、ローマからの通信によれば三十五

隻うち三十隻が船員の死傷者を出し

て十一時半開會した、なほ當運の

新兵員は左の諸氏である

ソシヤーは内務大臣、大統領、其

他閣員及び来亞中のバラクア・イ

ラムから通信によれば三十

名の死者と相當数の被害がアドリ

アニア地方にあり其他の地方でも

パラグワ井國に 暴動蜂起か?

通信機關全く杜絶

通 信 機 關 全く 杜 絶

ブレジヨン 植民地便り

ソロカバナ綿ア・マツシナード織

サツーバ、ピリカ半地方に倉庫を

有し舊米を持つてゐる商人達は豫

想外の高騰振に押してゐる

九時より落成祝賀會を舉行、午後

し方青年子女のために補習科を

は各支部小学校聯合の運動會夜

は青年會の餘興芝居等の催しがあ

った

年を充實しつゝ

蜂谷專一氏は十

月に開店した

富士屋運動具店

聖市に移轉

開業

年を終り改修することになつた

この程學生宿舍を擴張する事

年



(映画化)

とんざ時雨

(49)

賀川豊彦氏の説教

米人信徒頗る好評

市兵エはぬ具も何も用意してゐないから土手の中途で降つて来た雨の空氣で、ほんたが、どうも天を對手に喧嘩を始めた所で狂人沙汰、何うにもなりませんから、急いで石地蔵まで行かうとしたが、足を早める、その内にザーツと土手下の轍を打つ雨と、川面に降る雨の音が大きくなつて來た、勿論市兵エの身體は小氣味の悪い程濡れる。

市「まあ仕方がね、地蔵堂まで行つて降り止むの待つさいや、必ず大きく降るやうでは地蔵堂にやうな事もあるから……」

さ飛ぶやうにして地蔵堂の前に来た。それ程大きな御堂ではない三尺ばかり軒がはみだしてゐる、そのトに入つて雨を浴び市兵エ、づぶ濡れになつた衣類の裾を絞る頭の濡れたな拭いなど、暫くは夢中になつてゐた。すると此堂の方から何かひそひそ話しが聞こえてきた。

市「ハテナ、此の真夜中に、しかも雨に降られて宿泊しなしてゐるのだが、一體どんな奴等か

あ見も角を見てやれ……」

二十がらみで養父の仇を報ひた程の市兵エ、それに生れが武家であるだけにすつかり體も抜つてゐる。氣附かれないやうに足を忍ばせて堂の後方へ行くそこには籠詰らねに心配して待つてゐるが、そんなに心配して待つてゐるが、それ又、こんな所でまごまごしてゐる、どんな事であつてが引送して來てお前ままで連れて行かれこも限られました。してあなたさまは一體どうぞいか、何もお取まなかつて連れて行かう云ふでんだから

○「何處のどうだつて宜いで

ねいか、何もお取まなかつて連れて行かう云ふでんだから

○「オカ何處にあるんだ」

○「岩手・岩手縣千葉町の愛鶴家河野

片々風土記

されつてある賀川豊彦氏は米國教育院の指導で渡米以來文字通り云ふ事が

熊谷の人でございま

○「イヤさうですね、俺は此處

から三里ばかり離れた

作だ」

女「それでは前さんもやはり

熊谷の人でございま

○「イヤさうですね、俺は此處

から三里ばかり離れた

百姓の

手下の轍を打つ雨と、川面に降る

雨の音が大きくなつて來た、勿論市兵エの身體は小氣味の悪い程濡れる。

市「まあ仕方がね、地蔵堂まで

行つて降り止むの待つさいや、必ず

大きく降るやうでは地蔵堂に

やうな事もあるから……」

さ飛ぶやうにして地蔵堂の前に来た。それ程大きな御堂ではない三尺ばかり軒がはみだしてゐる、そのトに入つて雨を浴び市兵エ、づぶ濡れになつた衣類の裾を絞る頭の濡れたな拭いなど、暫くは夢中になつてゐた。すると此堂の方から何かひそひそ話しが聞こえてきた。

市「ハテナ、此の真夜中に、しかも

雨に降られて宿泊しなしてゐるのだが、一體どんな奴等か

あ見も角を見てやれ……」

二十がらみで養父の仇を報ひた程の市兵エ、それに生れが武家であるだけにすつかり體も抜つてゐる。氣附かれないやうに足を忍ばせて堂の後方へ行くそこには籠詰らねに心配して待つてゐるが、それ又、こんな所でまごまごしてゐる、どんな事であつてが引送して來てお前ままで連れて行かれこも限られました。してあなたさまは一體どうぞいか、何もお取まなかつて連れて行かう云ふでんだから

○「何處のどうだつて宜いで

ねいか、何もお取まなかつて連れて行かう云ふでんだから

○「オカ何處にあるんだ」

○「岩手・岩手縣千葉町の愛鶴家河野

片々風土記

されつてある賀川豊彦氏は米國教育院の指導で渡米以來文字通り云ふ事が

熊谷の人でございま

○「イヤさうですね、俺は此處

から三里ばかり離れた

作だ」

女「それほど知つてゐま

す」

○「それは知つてゐるよ、俺は

年中熊谷の宿へ用があつて行くだ

から、前さまだ今小町と云はれ

早く家へ歸らつせね、俺が見送つて上げるだから

女「ハイ有難い存ります、では

美しい人の雪まだ云ふ事も間

いてゐるが、まあそんな事はどう

だつて宜いですね、それよりも

早く家へ歸らつせね、俺が見送つて

う逃げ失せたとは思ふが殊に依る

ところであるかも知れぬ、金太

と一緒に行け、俺と熊はから世屋

へ行つて旨くかけ合つて来るから

うさした時、これに體が忍はせて

見えたが、物をも云は

うさした奴等だな

音「オッ」と合點だ

二人が降る中をしょぼしょ濡れになつてなれ、箱籠から往来の方へ出て來た。その折、石原村の方から駆け大走りに飛んで來た四五人の男。

○「音、この堂裏を見ろ、も

うしだらう、此邊を

うさひながら御堂の後方へ行か

うさした時、これに體が忍はせて

見えたが、物をも云は

うさした奴等だな

音に金太と云はれた二人は

うしだらう、此邊を

うさひながら御堂の後方へ行か

うさした時、これに體が忍はせて

見えたが、物をも云は

うさした奴等だな

音「オッ」と合點だ

二人が降る中をしょぼしょ濡れになつてなれ、箱籠から往来の方へ出て來た。その折、石原村の方から駆け大走りに飛んで來た四五人の男。

○「音、この堂裏を見ろ、も

うしだらう、此邊を

うさひながら御堂の後方へ行か

うさした時、これに體が忍はせて

見えたが、物をも云は

うさした奴等だな

音に金太と云はれた二人は

うしだらう、此邊を

うさひながら御堂の後方へ行か

うさした時、これに體が忍はせて

見えたが、物をも云は

うさした奴等だな